

# 脳振盪の為の前庭/動眼スクリーニング(VOMS for Concussion)

前庭/動眼テスト	実施無し	頭痛 0-10	めまい 0-10	吐き気 0-10	モヤモヤ感 0-10	コメント
ベースライン時の症状						
スムーズパスト						
サッカード 水平						
サッカード 垂直						
輻輳 近点						cm での近点 計測 1 _____ 計測 2 _____ 計測 3 _____
前庭動眼反射 水平						
前庭動眼反射 垂直						
視覚運動感度テスト						

## 使用説明：

**解釈：**このテストは9～40歳の患者に使用するように設計されています。この年齢範囲以外の患者に使用した場合、解釈は異なることがあります。いずれのテストでの異常所見や症状の誘発は機能不全の可能性を示唆し、より詳細な検査と管理の為に適切な医療従事者への患者紹介を行うべきである。

**道具：**巻尺；メトロノーム；フォントサイズ 14pt で印字された目標物

**ベースライン時の症状** — 頭痛、めまい、吐き気、モヤモヤ感を 0-10 の尺度でスクリーニング実施前に記録する

・ **スムーズパスト** — ゆっくり動く目標物を追う能力を検査する。患者と検者は座る。検者は指先を患者から 0.9m (3 フィート) の距離に保持する。患者は目標物 (指先) を注視し続けるよう指示され、検者は指先をスムーズに右へ 0.5m (1.5 フィート)、左へ 0.5m (1.5 フィート) 水平に正中から動かす。指先が左右に動いて正中に戻ってきたら 1 回とカウントし、2 回実施する。指先は左端から右端に移動するのに約 2 秒かけるスピードで動かし、同じように右端から左端に約 2 秒かけるスピードで動かす。このテストは垂直方向でも実施し、検者は指先をゆっくりとスムーズに正中から上に 0.5m (1.5 フィート)、下に 0.5m (1.5 フィート) 動かす。指先を下端から上端へ約 2 秒かけて動かし、上端から下端へ約 2 秒かけて動かすスピードで動かす。以下を記録する：テスト後の頭痛、めまい、吐き気、モヤモヤ感の程度。

・ **サッカード** — 複数の目標物の間で素早く眼球を動かす能力を検査する。患者と検者は座る。  
 ・ **水平サッカード**：検者は 2 つの点 (指先) を患者から 0.9m (3 フィート) 離して水平に保持し、1 点は正中から右に 0.5m (1.5 フィート)、もう 1 点は正中から左に 0.5m (1.5 フィート) にして患者が目線を 30 度

左、30度右に向けなければいけない状態にする。患者に眼球を出来る限り素早く2点間を動かすように指示する。目をスタート地点から左右に動かしてスタート地点に戻ったら1回とカウントし、10回行う。以下を記録する：テスト後の頭痛、めまい、吐き気、モヤモヤ感の程度。

・**垂直サッカード**：2つの点を患者から0.9m（3フィート）離して垂直に保持し、1点は正中から上に0.5m（1.5フィート）、もう1点は正中から下に0.5m（1.5フィート）にして患者が目線を30度上、30度下に向けなければいけない状態にする。患者に眼球を出来る限り素早く2点間を動かすように指示する。目をスタート地点から上下に動かしてスタート地点に戻った時に1回とカウントし、10回行う。以下を記録する：テスト後の頭痛、めまい、吐き気、モヤモヤ感の程度。

・**輻輳** — 近くの目標物を複視無しで見ることが出来る距離を計測する。患者は座り、必要であればメガネやコンタクトレンズを装着する。検者は患者の前方に座り、テスト中の目の動きを観察する。患者は腕の長さにある小さい目標物（約14フォントサイズ）を注視し、それをゆっくりと鼻先に向けて近づける。目標物が明らかに二重に見えたり、1つの眼球が外側に逸れる動きを検者が見つけたら、患者は目標物を近づけることを止める。目標物がぼやけることは無視する。目標物と鼻先間の距離をcmで計測し記録する。このテスト3回繰り返され、その都度距離を計測して記録する。以下を記録する：テスト後の頭痛、めまい、吐き気、モヤモヤ感の程度。異常：輻輳近点が鼻先よりも6cm以上。

・**前庭動眼反射テスト** — 頭部を動かしつつ眼球を固定する能力を検査する。患者と検者は座る。検者は約14フォントサイズの目標物を患者の真正面に0.9m（3フィート）の距離で保持する。

・**水平前庭動眼反射テスト**：患者は目標物への注視を維持しながら頭を水平に回旋する。頭部は左右それぞれの方向に20度回し、回旋のスピードはメトロノームを使用して180ビート/分（1ビートで1方向）で維持する。スタート地点からの1往復を1回とカウントし、10回行う。以下を記録する：テスト後の頭痛、めまい、吐き気、モヤモヤ感の程度。

・**垂直前庭動眼反射テスト**：患者は目標物への注視を維持しながら今回は頭を垂直に動かす。頭部を上下それぞれの方向に20度傾け、頭を動かすスピードはメトロノームを使用して180ビート/分（1ビートで1方向）で維持する。スタート地点からの1往復を1回とカウントし、10回行う。以下を記録する：テスト後の頭痛、めまい、吐き気、モヤモヤ感の程度。

・**視覚運動感度テスト** — 視覚運動の感度と前庭誘発性の眼球運動を抑制する能力を検査する。患者は施設内の人が多く動くエリアを向いた状態で両足を肩幅に開いて立つ。検者は患者を保護しつつ動きを妨げないように患者の斜め後ろに立つ。患者は腕を真っ直ぐに伸ばし、伸ばした手の親指を注視する。親指への注視を維持しながら、頭部・眼球・体幹を1つ塊として左右それぞれの方向に80度回旋する。メトロノームを使用して回旋のスピードが50ビート/分（1ビートで1方向）になるようにする。スタート地点から1往復して初めの位置に戻った時に1回とカウントし、5回行う。以下を記録する：テスト後の頭痛、めまい、吐き気、モヤモヤ感の程度。